

子どもの良さを生かす学級づくりを目指して

—— 学級での活動の中で ——

浦添市立仲西幼稚園教諭 幸 地 美佐子

平成10年度後期

20-1

目次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	1
III	研究の仮説	1
IV	研究の内容	2
1	子どものよさを理解するには	2
2	学級づくりの意義	3
3	よさを生かす学級での活動	3
V	研究の実際	5
1	幼児の特性を理解する	5
(1)	保護者から見た幼児と担任から見た幼児	5
(2)	個人記録	8
(3)	保育カンファレンス	9
2	学級における年間活動計画	10
3	保育実践	12
(1)	検証保育「発表会ごっこ」	12
①	主題	12
②	目標	12
③	設定理由	12
④	検証保育の指導計画	12
⑤	公開検証保育指導案	14
⑥	公開検証保育の活動の経過	15
⑦	検証保育の評価	16
(2)	Y男の変容「アナウンサーもできるよ」	18
①	Y男のプロフィール	18
②	保護者から見たY男と担任から見たY男	18
③	ある日の様子	18
④	保育カンファレンス	19
⑤	検証保育を通して	21
⑥	結果と考察	22
VI	研究の成果と今後の課題	22
1	研究の成果	22
2	今後の課題	23
	おわりに	23
	引用文献 参考文献	23

子どものよさを生かす学級づくりを目指して

— 学級での活動の中で —

浦添市立仲西幼稚園 幸地美佐子

【要約】

この研究は、子ども一人一人の特性を理解し、一人一人を生かす学級づくりを工夫しようとするものである。個人記録、保育カンファレンス、家庭生活アンケートを通して、一人一人の特性を理解した上で個々のよさを生かす方向を明らかにする。そしてよさを生かす活動内容を工夫したり、活動の場を組織して、一人一人のよさを生かす学級づくりを目指してきた。

その結果、子どものよさが生かされ、自分らしさを発揮し、生き生きとした学級をつくることができた。

キーワード 子どものよさ 援助 学級づくり

I テーマ設定の理由

幼児期は心身の発達が著しく、人間形成の上で大切な時期である。好奇心や探求心も発達していき、生活が自立し始める時期である。その時期にある幼児は何でも興味を持ち、活動に没頭し、そこで発見したことや気づいたこと、作ったものなどを教師や友だちに伝えようとする特性を持っている。

幼稚園教育要領の中でも一人一人の発達に応じた総合的な指導が行われることを重視し、自ら学び、自ら考える能力や豊かな人間性などの生きる力を育成することを強調している。

しかし、現代の幼児を取り巻く状況を見てみると、少子化、都市化、情報化が著しい。その影響で、遊び仲間や遊び場の減少。テレビやテレビゲームでの受け身的な遊びをする子が多い。依頼心が強く、積極的に物事に関わろうとしない子。人との関わりが弱く、自己表現が乏しい子などが見られ、幼児の発達にとって最も重要な自我を形成する機会が少なくなっているのではなかろうか。

これまでの学級での子ども達の様子を見てみると、自分のよさを十分に出してちびっ子先生をしたり、友達と一緒に人形遊びをしたりして、生き生きと取り組んでいる姿も見られるが、集まりの時間になっても自分のやりたいことだけをやろうとする子、教

師の話に興味を示さず、寝転がったりしてしまう無気力な子、登園を嫌がる子などが見られ、教師としても子ども達一人一人を生かした学級づくりができていたろうかと反省させられる。

学級は最も安心して一人一人の幼児が自己発揮できる場であり、教師との信頼感ができ、さらに幼児同士の心のつながりのある温かい集団と言える。その学級においてこれまでの反省をふまえ、一人一人の特性を捉え、うまく生かす場や活動を工夫すれば、自分らしさを発揮し、一人一人を生かした生き生きとした学級になるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究の目標

子ども一人一人の特性を理解し、一人一人を生かす学級づくりを工夫する。

III 研究の仮説

1 基本仮説

一日の園生活の中で子ども一人一人の特性を具体的に理解し、よさを見つけ生かす指導の工夫をすれば、一人一人が生き生きとした学級づくりができるであろう。

2 作業仮説

- (1) 一日の園生活の中で子ども一人一人の行動や指導の個人記録、保育カンファレンス、家庭生活アンケート等の手だてを講じれば、子どもの特性を理解でき、子どものよさを見つけることができるであろう。
- (2) 一人一人のよさを生かす活動内容を工夫したり、活動の場を組織すれば、一人一人の子どものよさを生かす生き生きとした学級づくりができるであろう。

V 研究の内容

1 子どものよさを理解するには

- (1) よさを生かすとは

幼児のよさ=その子らしさ

その子らしさとは

特別な個性や能力ではなく、生活の様々な場面や状況の中で、ためらいなく出されるその子の「思い、願いや気持ち」の動きをさす。

その子らしさを捉えるために

個々の幼児の持つ特性を理解する。その中からよさを見つけ、それを生活の中で生かすことを「よさを生かす」ととらえる。

- (2) 理解とは

Under Stand

その人の下にまわって その人を支える。

- ① 幼児の場合は

- ・ 幼児の行動を通して、幼児が何に心を動かしているのか、その幼児にとっての意味を感じ取る。

- ・ 今一番大切にすべきことは何かなどについてできるだけ幼児の立場にたって捉える。

- ② 特性を捉える視点

- ・ 感情の表し方
- ・ 生活の仕方
- ・ その子だけの持ち味
- ・ 得意なこと
- ・ 興味・関心
- ・ 対人関係

- (3) 幼児の特性の理解をする取り組み

- ① 個人記録

一人一人の発達をつぶさに捉えることが何より大切であると考え、できるだけ多く記録をとる。節目ごとに集約して、育ちの変化を明らかにする。

- ② 保育カンファレンス（保育の実践検討会）

自分一人では考えてもよく理解できない子、どう援助していいかわからない子を対象に教師全員で検討していく。自分とは違った他の多くの教師の見方、感じ方が参考になり自分の子どもを見る目がかたよりのない深い確かな目になっていく。教師全員の問題として共有化し、共に育てていけるようにとの願いもある。

- ③ 家庭生活アンケート

幼稚園と家庭は連続した生活の場として機能している。家庭での幼児の様子や保護者の願いを知るために調査し、多面的に幼児を理解する。

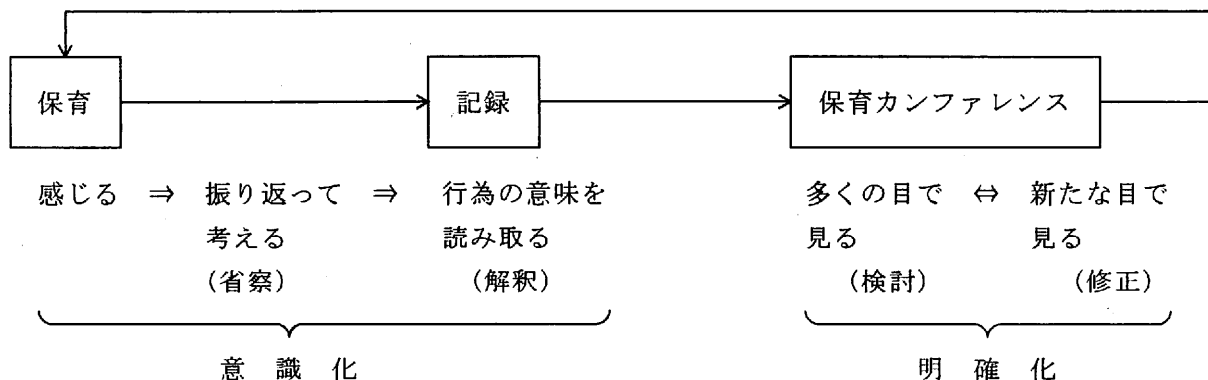


図1 幼児を理解していく過程

2 学級づくりの意義

学級は最も安心して一人一人の幼児が自己発揮できる場であり、教師との信頼感ができ、さらに幼児同士の心のつながりのある温かい集団でなければならない。

(1) 学級の役割

① 幼児の性格形成の基礎を築く

幼稚園教育の重点の一つである一人一人の幼児の性格形成は、幼児に一定の社会生活を体験させることによって培われる。そのため幼稚園において幼児に一定の社会生活を体験させ望ましい性格の基礎を培うために学級が必要となる。

② 幼児に組織的な生活の仕方の基礎を身につける

人間が他の動物と区別される独特の生活の一つに、一定の秩序を持った組織的な生活があげられている。この組織的な生活が可能になるのが幼児期からであるから、幼稚園においても幼児に人間独特の組織的な生活の仕方の基礎を身につけるために学級が必要となる。

③ 幼児の集団所属の欲求を満たす

人間は常に集団に所属していたいという集団所属の欲求を持っている。この欲求は特に幼児期に著しくさかんに友達を認める。そのため幼稚園においては幼児のこの欲求を満たしてやるために学級が必要となる。

④ 共通体験を得させる

幼児の心身の調和的な発達を図るためには一人で自由にのびのびと体験させるとともに友達と一緒に共通の興味と関心を持って力を合わせて活発に楽しく共通体験させることが大事である。そのため幼稚園においては、幼児に共通体験を得させるために学級が必要となる。

(2) 保育集団の自由の中の目的

① 自分らしく生きていく→個性を生かして生きる

② みんなが「自分らしく生きていく」ことが

できる→共存できる

その行動目標

① 個性を生かして生きる→自分のしたいことをする

② 共存できる→友達やまわりの人と認め合い行動できる

3 よさを生かす学級での活動

(1) 学級での活動

学級は子どもを信頼し、生活を共にする中で子どもの成長発達を的確に捉えそれぞれの時期に合わせて、子ども達と相談しながら学級全体で行う活動もとりにあげていく。

① 「あの子がやっているから、私もやりたい」「みんなでやるとおもしろい」等と他の子の活動を見ることにより意欲を持つ。

② すべての子どもに共通体験ができる。

③ 学級全体での楽しい充実した活動が一人で活動したり、グループで活動する時に充実した活動をするきっかけとなる。

(2) よさを生かす活動内容

① 子どもの興味や欲求に応じた活動内容にする。

② 子どもの発達を見通した活動内容にする。

③ 子どもの生活や季節を考慮した活動内容にする。

(3) 活動の場の工夫を捉える視点

① 保育の流れの中での場の工夫

・ 導入、展開、まとめで生かす場を設定する。

② 保育の中における場の工夫

・ 子どもの活動の効果を引き出す場を工夫する。

③ 保育環境としての場の工夫

・ 子どもの興味、関心を生かすために、一人一人の子どもに応じた場の工夫

・ 保育を構造的に捉えた上での遊具や準備等の設置としての場の工夫

(4) 学級の中でよさを生かす援助の方向

① 一人一人の興味や関心・能力に即して、学級の中にその存在が認められるようにする。

- ・ それぞれの遊びの中での様子をキャッチして、様々に伝えられるようにしていく。
- ・ それぞれの特性が生かせる場面を意図的に設定するようにしていく。

② 学級の友達との関わりを通して、自他の認識をし、互いに受容し合えるようにする。

- ・ 友達がいらない、遊べない、楽しめないということがないようにしていく。
- ・ 状況によって、自分はどうすればよいのかということを考え、自分で自分の行動ができるようにしていく。

(5) 個のよさを生かすには

① 一人一人の特性を大事にする

- ・ 個々の幼児の抱いた興味や関心を認め大事にする。
- ・ 個々の幼児の自由な発想を認め大事にする。
- ・ 一人一人のペースを認め大事にする。
- ・ 個々の幼児の取り組み方を認め大事にする。

② 個のよさを生かす具体的な援助

・ 動きによる援助

教師が子ども達と一っしょに体を動かして遊ぶことにより、その遊びをすることや、その友達と一っしょに遊ぶことへの不安を和らげる。

・ 表情による援助

やさしく見守るまなざし、笑顔、助け合ったときのはげましのうなづきなど、教師が気持ちを素直に表情に表すことにより、子ども達は安心してすごせる。

・ うなづきの援助

教師の温かなまなざしや共感的なうなづきなどが子ども達にとって、心のよりどころとなっている。

・ 言葉かけによる援助

なかなか行動にうつせない子には自分が

先に楽しくすることにより、きっかけとなるような具体的な言葉を、さりげなくかけてみる。

・ 手伝うことへの援助

子どもたちがいきづまったら気軽に手伝ってあげる。いっしょにやりながらだんだん任せられることは任せるようにしていく。

・ 教えることの援助

子どもが知りたいというときには教えてあげることも必要。その子のペースに応じていっしょに調べたり、何度も繰り返し教えたりする。



三角に折って・・・一緒に遊みます



♪ グーチョキパーで、みんなにここに笑顔



「先生、聞いて聞いて」「そうなの」

(6) 学級づくり構想図

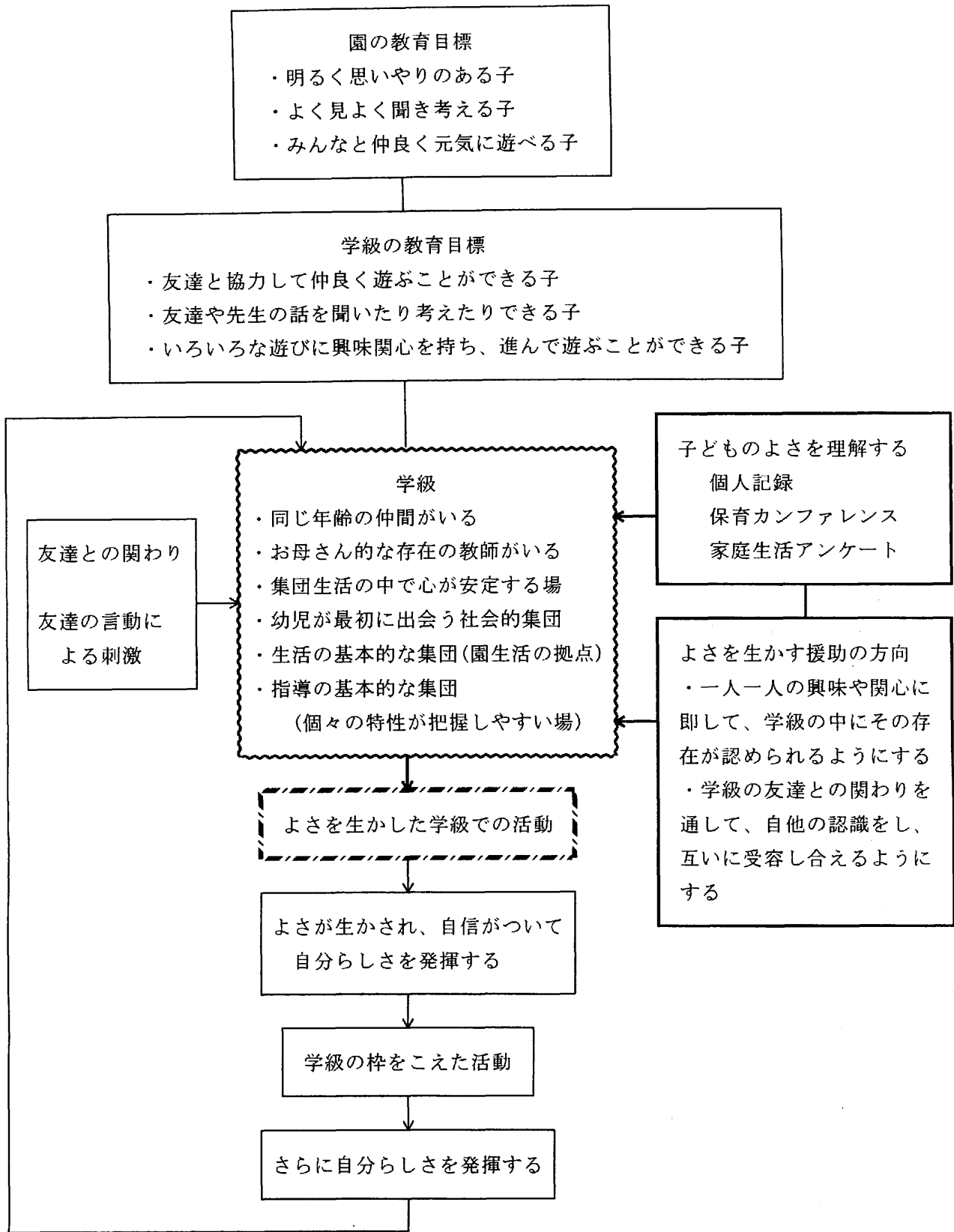


図2 よさを生かした学級づくりの構想図

V 研究の実際

1 幼児の特性を理解する

(1) 保護者から見た幼児と担任から見た幼児

家庭での幼児の様子や保護者の願いを知るために6月に家庭生活アンケートを実施した。家庭生活アンケートによる保護者から見た幼児と担任から見た幼児を考察し、今後よさを生かす援助の方向を明らかにする。

① 保護者から見た幼児

	よさ	子育てで大切にしていること	気になるところ	どんな子育てほしいか
Y 男	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がある ・動物が好き ・自分の好きなことには集中力がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・少しの時間でもできるだけ本人の話を聞いたり質問したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・少食 ・体力と運動量のバランスが悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で素直な子
K 男	<ul style="list-style-type: none"> ・優しい ・ききわけがいい ・手伝いをしてくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの話を聞く ・誉める ・悪いことはきちんと教える 	<ul style="list-style-type: none"> ・几帳面なので他の子にお節介すぎないか ・甘えん坊なので集団生活がうまくできるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある子 ・チャレンジ精神のある子
H 男	<ul style="list-style-type: none"> ・感受性が強い ・率直 ・優しい ・身が軽い ・動物が好き ・立ち直りが早い 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやり ・自分でできることは進んでやる ・他人には迷惑をかけない 	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく、素直 ・人の痛みがわかる子
A 子	<ul style="list-style-type: none"> ・優しい（相手の気持ちがわかる） ・明るい ・主体性がある ・表現力が豊か ・集中力がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちがわかるように説明をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・好き嫌いがはっきりしている ・協調性に欠ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・優しく心身共に元気な子
N 子	<ul style="list-style-type: none"> ・面倒見がいい ・手伝いをよくする ・優しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外で体を動かし遊ぶこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校にいきたがらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきとした元気いっぱいの子
S 子	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと整理する ・ききわけがいい ・悪いことや意地悪はしない ・本を大事にしよく読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの話をよく聞く ・うそはつかない ・人が嫌がることはしない ・挨拶ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・協調性がない（自分がしたくないことはしない） ・言い方がきつい ・本当に気にいった子としか遊ばない 	<ul style="list-style-type: none"> ・素直で明るく ・優しく、誰からも好かれる子
T 子	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく活発 ・面倒見がよく、優しい ・感情が豊か ・手伝いが上手 	<ul style="list-style-type: none"> ・持っている可能性を十分に伸ばせる環境にしていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中時間が短い（あきっぽい） ・テレビを見る時間が長く、外で遊ぼうとしない 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の痛みがわかる思いやりがある優しい人・人に迷惑をかけない ・元気で友達をいっぱいつくってほしい

② 担任から見た幼児



	よさ	気になるところ	願い
Y男	・好奇心旺盛である ・動植物に興味、関心がある ・自分の思いを表現することができる	・決まりを守らない ・自分の思い通りにしようとする	・園生活の中で我慢したり譲ったりすることがわかる ・学級での活動に意欲的に取り組めるようになる。
K男	・真面目に一生懸命物事に取り組む ・自分の思いを筋道立てて話す	・神経質な面が見られる ・自分から友達を誘うことが少なく遊びを傍観したり教師の側にいることが多い	・友達と関わりを持って遊ぶ ・集団生活の中で自己発揮ができる
H男	・進んで手伝いをしていて思いやりがある ・小動物が大好き	・自分の思いをあまり表現しない ・教師の目をひくような行動をとる ・一人遊びが多い	・自分の思っていることを表現することができる ・友達と関わりをもって遊ぶ
A子	・植物に興味があり、草花遊びが好き ・好きな遊びに集中して取り組む	・母子分離ができるのに時間がかかった ・表情が乏しい	・より多くの子と関わって遊びを楽しむ ・言葉や表情で自分の思いを表現できる
N子	・砂土遊びが好き ・話を静かに聞くことができる	・登園を嫌がり、なかなか教室に行こうとしなかった ・表情が暗い	・情緒が安定し、園生活を楽しむ
S子	・真面目に物事に取り組む ・物静かであるがしっかりしていて、自分の思いを表現できる	・友達と遊ぶことが少なく、一人遊びが多い ・大勢の前では恥ずかしがる	・友達とかかわって遊びを楽しむ ・友達の中で自己表現できる
T子	・積極的に何でもやりたがる ・自分の思いを表現することができる	・自分の思い通りに動こうとする ・動作が遅く、身支度に時間がかかる	・集団生活を意識して物事に取り組む

《アンケートからの担任の考察》

- Y男 ・ よさは園、家庭とも共通していて、ほぼ自分らしさを出していることが伺える。しかし集団生活の仕方が気になるがよさをのばしきれていないからだろうか。
- K男 ・ よさも気になるところも願いもほぼ園、家庭とも共通している。自分らしさを出していると思われるが園ではまだ緊張が見られるところがある。慣れて早くよさを十分だしてほしい
- H男 ・ よさは園、家庭とも共通する部分もあるが、園ではまだよさを見出してない部分もある。アンケートでは気になるところは空欄になっている。園ではまだ緊張しているところがあり、自分をだしきれていないことが伺える。そのことが教師の目をひくような行動をとるのだろうと思われる。
- A子 ・ よさも気になるところも共通する部分もあるが、違いも見られる。集団生活の中で自分を出しきってないことが伺える。いろいろな場でよさを見つけていきたい。
- N子 ・ 気になるところも願いも園、家庭とも共通している。気持ちが安定してないことがよくわかる。安定していくことでよさがより多くでてくるのだろうと思われる。
- S子 ・ 家庭では協調性がない、言い方がきつい面があるとのことだが園でおとなしいので意外に思った。しっかりしている子ではあるので家庭では甘えがあるのだろうか。園ではまだ緊張しているところがあり自分が出しきれていない。その反動として家庭で見られるのかもしれない。
- T子 ・ 気になるところが園と家庭では違いが見られる。家庭でできないことを園で思いきりやろうとしているのだろうか。発散していくことでよさを出していくのではなかろうか。

(2) 個人記録

一人一人の幼児を理解するために、日々記録をとり、学期ごとに集約する。
A子の個人記録から抜粋（母子分離に時間を要した子）

子どもの様子	教師の援助
4/21 母親と登園するが離れたがらない。しばらく一緒にすごした後母親は帰る。別れる時、母親はA子と話し合ったり、抱いてあげたり、スキンシップも見られる。	時間が許す限り幼稚園でA子と一緒に過ごしてほしいことを母親にお願いする。
4/27 母親と絵本を読んでいる。近くにいる子も仲間に入り楽しそう。降園時に「絵本借りていい」と教師に言いに来た。	 <p>絵本貸し出しはまだ始まっていないが、A子の思いを受けとめ、快く貸してあげる。</p> <p>親しみが持てるように会話を楽しむ。 すかさずA子を指名して、答えてもらう。 「大正解」と大いに誉めてあげる。</p>
5/8 登園後母親と過ごす日が続いている。少しずつ慣れてきたようで教師への声かけが増えてきた。帰りの会で教師がクイズを出すと、手をあげ答えている。	
5/15 マニキュアの花（おしろい花）を摘んで教師に持ってきてくれる。どこにあるの？と聞くと、喜んで教えてくれる。オレンジも黄色もあるよと摘んで持ってきてくれる。	教師もおしろい花に興味を示し、おしろい花の汁を爪にぬり、一緒に遊ぶ。周りにもその遊びを伝えようと思い、「かわいいね、きれいだね」等と感動の言葉をかける。
5/20 マニキュア遊びをしている。水を入れたプリンの空き容器をA子に出してあげると興味を示し、すぐに色水遊びを発見する。周りにもA子の刺激を受け色水遊びを始める。	 <p>色水遊びへの発展そしてA子のよさを出してあげたい思いでプリンの空き容器を準備してあげる。周りの子がどうやってつくるの？と教師に聞いてきたら、A子がよくわかるよとA子の存在感を示した。 その日帰りの会でA子が発見した色水遊びを話題にとりあげる。</p>
6/12 当番活動を進んでやっている。教師にA子が全部やったからねと言っている。 ちびっこ先生になり、他のちびっこ先生と一緒にみんなの前に出ているが発言はしない。	学級での活動に意欲を出したことを大いに認めると共に誉め、ちびっこ先生をやっているA子に温かいまなざしをおくる。

③ 1学期の育ちの変化

特性を捉える視点	育ちの変化
感情の表し方	無表情の様子が多く見られたが好き嫌いがはっきり見られるようになり、自分の気持ちを表すようになってきた。
生活の仕方	自分の気のむくままに行動しようとし、集まりやおやつに教師が促すことが多かったが自分で意識して取り組むようになってきた。当番活動等も意欲的に取り組むようになってきた。
その子だけの持ち味	周りに影響されずに自分の好きなことに集中して取り組むことができるようになってきた。
得意なこと	手先が器用で色紙や粘土で作るのがじょうずである。
興味・関心	植物に興味があり、草花を摘んできて長時間摘んできた物で遊んでいる。草花の性質がよくわかる。
対人関係	母子分離ができるようになった。人の好みがはっきりしている。保育園が一緒だった他学級のK子とよく遊んでいたが、しだいにクラスの友達とも遊ぶようになってきた。

(3) 保育カンファレンス

対象児，日時を決め観察し，関わる。降園後実践検討会を設ける。カンファレンス用紙に幼児の姿と読みとった心の動きの2項目を記入し，それをもとにかかわりの気づきと今後の援助を話し合う。

N子のカンファレンスの場面から抜粋 (集団に慣れにくかった子)

平成 10年 6月 18日 (木) 天気 (曇り)		
時間	幼児の姿と教師の関わり	読みとった心の動き
7:55	<p>T1 姉と登園。うわばきを履いて廊下にいる。近くにいる子にN子と一緒に部屋に行つてとお願いしたら，一人で2階の部屋に歩いて行った。</p> <p>所持品の始末をした後，遊戯室におりてきていて，担任の顔を見ると，「先生遊ぼうね」と言っていて笑い顔(ニヤニヤ)集まりだよと手を引いたら，寝そべったのでそのままにしたが少し遅れて自分で部屋に入ってきてグループに並んだ。</p> <p>プール遊びに誘うと水着忘れたとのことで水着借りると聞いたろうなずくので，一緒に探したがみつからない。それでブランコに行く。</p> <p>T2 H子とS男がブランコの取り合いをしていると側で見ていたN子「H子が先だったよ」とはっきり言っている。N子に「水遊びしないの?」と聞いたら「嫌いだから・・・」と答える。「先生もブランコ乗りたいな」と言ってみると答えはしなかったがにこにこ楽しそうにこいでいる。</p> <p>T3 そのうち砂場へ移動する。担任がそれに気づき，砂場道具を出す。M子，S子と何やら作っているうちに，K子が加わるちょっとしたヒント(道具)からアイスクリームができる。N子は自分もアイスクリームを作りたいそうにうらやましそうに見ている。「N子も使いたい」何度もつぶやいている。「お友達の使いたい時は貸してと言うのよ」とT2が言うと目をキョロキョロさせている。しばらくすると「貸して」と言う。</p>	<p>私一人で行けるよ。</p> <p>先生なんて言うのかなちよつとからかっちゃおう，だっこしてくれないかな。</p> <p>私も集まりに参加しよう。</p> <p>プール遊びはあまり好きじゃないんだ。</p> <p>私知ってるよ，見てたから牛乳パックプールいっぱいいるからブランコで遊ぼう。</p> <p>今日のN子はとても満足そうでいい顔している。周りにはお友達もいるし，担任も必要に応じて関わってくるしとても楽しそうであった。</p>



関わりの気づきと今後の援助

・入園当初からほとんど担任と部屋に行っていたが，友達とも行けるようになり，今日は一人で部屋に行くことができた。心が安定し，安心して自分を出せる場として，学級を受け入れる気持ちになったのだろうか，その開放感が「私一人でも行けるよ」という主体的な行動になったのだろう。

・担任はこれまでの関わりがあるので部屋に誘う時に無理にはしなかったが担任の予想通り朝の集まりに参加していて，N子の成長を感じた。

・今後も成果をさせることなく，教師は温かく見守ったり，援助したりして信頼関係を深めながら友達との関わりを広めていきたい。

2 学級における年間活動計画

	I	II	III
発達段階	一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して幼稚園生活に親しみ安定していく時期	周囲の人や物への興味や関心が広がり、生活の仕方や決まりが分かり自分で遊びを広げていく時期	友達とイメージを伝えをしっていく時期
ねらい	・喜んで登園し、教師や友達と触れ合いながら幼稚園生活に慣れる。	・友達といろいろな遊びを楽しみ、試したり工夫したりして遊びを広げていく。	・思っていることや考てグループや学級の友ことの充実感を味わう。
観念の発達	○グループで遊ぶ楽しさがわかる。	○自分なりの課題に向かって挑戦する。	○自分のイ
		○グループ遊びを通して友達との関わりを深め、互いに認	
学級の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園探検 ・集団生活の話し合い ・集団遊び（はないちもんめ、あぶくたつた） ・こいのぼり作り ・母の日のプレゼント作り ・粘土遊び ・自由画 ・壁面作り ・歌 ・紙芝居や絵本を見る ・おやつ ・弁当会 ・当番活動 ・帰りの会 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団ゲーム（フルーツバスケット、イス取り） ・父の日のプレゼント作り ・七夕飾りを作る ・親子清掃、学級会（1学期終了時） ・地域の清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み（絵、体験話）演技作り、ごっこ） ・落ち葉の模様作り、水 ・跳び箱 ・縄跳び
活動の場面	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの大好きなクイズコーナーを設ける。（子どもから、教師から） ・当たった子にクイズ博士メダルをあげる。（メダルは作りたい子どもと教師と一緒に作る） ・降園時、一人一人名前を呼び笑顔で挨拶を交わしたり、握手をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい遊び紹介コーナーを設ける。（子どもから、教師から） ・絵本や紙芝居を子どものリクエストで選ぶ。（ちびっ子先生に読んでもらったりする。） ・降園時、友達同士で身なりを点検し合う。（着替えは上手にできたかな、忘れ物はないかな） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いいことニュースコ（子どもから、教 テレビ画面を準備 ・帰りの会をちびっ子（やりたい子を募
よさ	<ul style="list-style-type: none"> ・入園までの生活の様子をよく理解して、一人一人に応じたかかわりを配慮しながら、情緒の安定をはかる。 ・入園した喜びを受けとめ、十分に開放感が味わえるような場や時間を保障する。 ・個々の心の動きや活動を見守り、安定して生活できるよう子どもとの接触を持つ。 ・自分達でやっていこうという気持ちを大事にし、素材の配置や遊び場の構成など子ども達と共に考えていくようにしたい。 ・きのうあったこと、きょうのできごと、発見したことなど一人一人の話を聞いて思いを受け止め、共感してやり周りの子に知らせてあげる本人の自信と他の子への意欲へつなげていく。 ・当番の仕事の内容や、必要についての理解を図り、自主的に取り組ませるようにする。 ・みんなで集まると楽しいことが始まるという期待感が持てるような雰囲気作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団を意識し始め、友達と一緒に遊ぶことに楽しさを感じてくるので集団行動やグループ遊び等の機会を多く持ち、その中で自分の力が発揮できるような援助をする。 ・友達間でお互いに自分の思いを出し合ったり、認めあったりして楽しむ姿を大切に育てていく。 ・友達とのトラブルは、自分達で解決できるように支えたり、見守ったりしていきたい。 ・当番活動が自分達の生活にとって大切であることを自覚させ、責任を持って取り組めるようにする。 ・遊びがさらに広がったりいろいろな経験を増やしたりできるよう遊びの後の話し合いを大切に楽しかったことや工夫したことを伝え合える機会を持つようにする。 ・個々に成長したことを知らせ、親子で一学期間無事に楽しく過ごせたことを喜び合い、夏休みや二学期に期待がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のリズムを早分を出して遊べるよう、する。 ・楽しい伝え合いの場ことを、素直にわかるして、心の交流を図る ・友達と思ったことをりして遊んでいけるよやどのように遊びたいえるように援助し、協力を大事にしていきた ・グループや学級でま動したり、運動会をしやり遂げたなどという ・それぞれの課題を持つのを要求するのではな ・ちびっ子先生等をすことの楽しさを味わわ一人として加わり見守共感したりしていく。

	IV	V
え合い共に生活する楽し	友達関係を深めながら自己の力を十分に発揮して生活に取り組む時期	友達同士で目的を持って幼稚園生活を展開し深めていく時期
えていることを出し合っ 達と力いっぱい活動する	友達と共通の目的に向かって遊びを進めていき、いろいろな表現や活動を楽しむ。	目的や見通しを持って活動に取り組み個々の力を十分に発揮して互いに認め合いながら園生活深める。
メージをグループの遊びの中で生かし合う め合いながら遊ぶ	○自分達で遊びや生活を自主的に進める。	○友達と共通の課題に取り組み、進めていく。 ○集団の目的に向かう中でお互いの力を認め合う。
・運動会（話し合い、 秋の自然（落ち葉集め、 栽培）・誕生会の準備	・ゲーム（しっぽとり、円形鬼ごっこ等）・郵便屋さんごっこ・発表会ごっこ・好きな絵（アルバムの表紙）・冬休みやお正月についての話し合い・年末大掃除	・正月遊び（凧作り凧上げ、こままわし等）・ことば遊び（しりとり、頭音集め等）・ゲーム（ねずみとねこ等）・学校ごっこ・修了アルバム作り・身の周りの整理整頓・思い出を話し合う
ーナーを設ける。 師から、 する。 先生が進める。 る。)	・プロ認定証を与えるコーナーを設ける。 毎日一人ずつプロ認定証を与えながらよさを紹介する。 (例 お絵かきのプロ、当番のプロ、)	・自慢の出し物コーナーを設ける。 自分の得意なものを発表する。 (例 竹馬、側転、歌)
く取り戻し、思いきり自 個人差に応じた指導を を設け、見たり体験した ように話したり聞いたり ようにさせる。 い合ったり助け合った うにお互いに自分の思い かという見通しを伝え合 力していこうとする気持ち。 とまって力を合わせて活 たりして、面白かった、 喜びを存分に味わわせる たせ励まし、技能的なも く、努力や意欲を認める る中で主体的に取り組む せるように教師も仲間の ったり子どもの気持ちに	・友達と遊びについて相談したり、協力したりして遊びを発展させる中でお互いのいいところを認め合ったり大勢の友達と遊んだりする楽しさを感じられるように援助していきたい。 ・個々の幼児の感じ方を大切に、友達と共感したり影響し合ったりしていろいろな方法で表現できるようにする。 ・グループの遊びから学級全体への活動に発展していくような場合は話し合いの場を設けて支えていく。 ・いろいろな行動や活動を通して、一人一人が成長したことを感じとらせみんなで喜び合う。 ・それぞれが力を出し合いながら、共通の目的に向かって取り組んだり相談して役割を分担したり、皆の前で発表したりして友達と一緒に遊びをまとめあげる喜びや自信を持たせる。	・お正月休み中の経験やこれからのことを話し合ったりして自分なりの課題や自信を持って物事に取り組もうとする気持ちを盛り上げる。 ・個々の力を十分に発揮し、友達と共通の目的を持ち、やり遂げられた充実感を得られるようにする。 ・同じ目的を持って遊んだり、学級全体の活動に発展したりするように支える。 ・今までにできるようになったことを、自分なりに表現できるように援助し、お互いのよさを認め合えるように援助していきたい。 ・園生活の展開は子ども達に任せながら、教師もなにげなく参加して自分達で物事を進める喜びや満足感を得させる。 ・具体的な場を通して一人一人の幼児が自分自身の成長に気づいたり、友達のよさを認めたりして共に成長を喜び合えるようにする。

3 保育実践

(1) 検証保育

- ① 主題
そら組わくわく発表会ごっこ
- ② 目標
学級での活動である「発表会ごっこ」という共通の目的に向けて、自分の思いや考えを出し合い、学級の仲間と共感したり認め合ったりして自分のよさを発揮していきけるようにしていく。

③ 設定理由

幼児は毎日の生活の中でいろいろな遊びを展開しながら、自分の持ち味を出して行動している。これまでに個人記録、保育カンファレンス、家庭生活アンケート等を通して特性を理解し、その子らしいよさを見いだすことができた。又子ども達は自分の得意なことを友達や教師に喜んでやってみせていて、友達や先生と認め合っている。個々のよさを生かす活動の場が多く持てる発表会ごっこで自分らしさを発揮し、学級の仲間同士で創意工夫し、協力し合って取り組んで欲しいと考え、次のような実践を行った。

④ 検証保育の指導計画（発表会ごっここの取り組み） 凡例 □ 学級全体での活動 □ グループの活動 □ 活動内容の工夫 活動の場の工夫

	主 ね ら い	幼児の活動	教師の援助
12月5日	・自分なりの目的をもって挑戦し、自信をもって発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">運動発表会</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">発表会ごっここの話し合いをする</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージは ・どんな出し物 ・発表会の名称は </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">出し物について具体的に話し合う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 個人又はグループ 予想される出し物 (竹馬、人形劇、ダンス等) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">出し物のチームに分かれて取り組む</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">どんな係があるか話し合う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 予想される係 (マク係、準備係等) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が演技や係活動をやり遂げた喜びや満足感を味わえるように励ましたり、必要な援助をする ・一人一人の可能性を信じて絶えず認めたり励ましながらか、持っている力を引き出していき、自信へと繋げていけるようにする。 ・お家の方々に子ども達のこれまでの頑張りを伝えるその成長を共に喜びたい。 ・発表会ごっこに意欲が出るような言葉かけをし、楽しくなるような雰囲気作りをする。 ・自分達の発表会をしたいという気持ちが出るように具体的にアドバイスしたり、共に考える。 ・どんな発表会にしたいのかを子ども達と話し合い発表会のイメージを表すような名称をみんなで作る。 ・話し合う場面では、なるべく一人一人に話す機会を与えようにして、その子なりの思いや考えを引き出し受けとめられるようにする。 ・実現できそうにない出し物についてはみんなで作る場（時間）を設ける。 ・子ども達の様子を見守りながら、必要に応じて援助する。 ・運動発表会の様子を思いださせながら、イメージを共有し、係を引き出すようにする。 ・子ども達一人一人のやりたい係が実現できるように配慮し、調整できな時は子ども達に相談し、考
7日	・発表会ごっこをしようという意欲を持つ。		
8日	・自分の発表したいものを考えることができる。		
9日	・グループの友達や先生と一緒にどんなふうに参加するか考えることができる。		
10日	・発表会ごっこを進めるためにどんな係があるかを考えることができる		
11日	・自分のやりたい係を選ぶことができる		

きる。
・自分なりの考えや思いをみんなに伝えることができる。

・発表会ごっこに向けて自分の出し物や係がわかり、意欲的に取り組む



・発表会ごっこの流れがわかり、自分の出番や係活動はいつするのかを意識して取り組む。
・友達の見学を楽しんで見る。

・自主的に自信を持って発表会ごっこをする。
・友達や先生とお互いを認め合い、つ助け合って発表会ごっこをする。

発表会ごっこについて話し合う
・自分の係を決める

- ・発表会ごっこの名称
- ・プログラムの順番
- ・プログラムの名称
- ・発表会ごっこの環境作り

ダンス、人形劇
竹馬、縄跳び
跳び箱

マイク係
プログラム係
看板係 準備係

その時その場に応じて、自ら活動を選び、関わる。

- ・出し物をどんなふう
に発表するか考えた
り踊ったりしたり
する。
- ・運動的な出し物は得
意技を考えたり、挑
戦したりする。

- ・アウンスする話を考
えたり、実際にやっ
てみる。
- ・役割を分担してプロ
グラムや看板を作
る。
- ・誰がどの出し物の
準備をするか等の
相談をする。

発表会ごっこのリハーサル

プログラムたいさかいね
3びきりごぶたさ
3びきりごぶたさ
たのしくたのしくやまをまわら
みて(おまわり)ありがとうございます、
子どもが考えた
アウンスの内容

発表会ごっこ (本時)

発表会ごっこ

(他学級の友達やお父さん、お母さんを招いて)

えさせる。

- ・発表会ごっこができるまでの過程は子どもの思いや考えが反映されるようにその都度話し合いを持つようにする。
- ・舞台はどの演技もスムーズに発表できるように工夫し、いつでも自由に使えるようにする。

・子ども達が発想したことが自由にできるように材料や場の準備をする。

・自分らしさをだしているところでは、誉めてあげのびのびと表現できるようにする。

・子どもアイディアが見られる場面ではみんなの前で誉めてあげる。

・難しそうにしている時はヒントを出し、子どもの意欲が損なわれないようにする。

・いつでも発表会ごっこができるように活動しやすい環境にする。

・子どもがやりたいという意欲を認め、上手にできるできないではなく、取り組んでいる過程を大事にしたい。

・子どもが発表したい演技を変えたり、増やしたりしてもできるだけ実現させようとする。

・一人一人の子どもの立場に合わせて、その役割や活動を認め、自信を持たせるような言葉かけをする

・自信を持って発表できるように、絶えず認めたり励ましながら、持っている力を引き出し、出していく。

・自分の出番や係を意識して自主的に動けるように先生だけでなく、友達同士でも声かけ助け合っているようにする。

⑤ 公開検証保育指導案

日時 平成10年12月16日 9時15分～10時

対象児 そら組 男15人 女17人 計32人

ア ねらい

- 共通の目的に向けて、友達や先生と協力し合って発表会ごっこを進める。
- 発表する時や自分の係によさを生かして、楽しんで取り組む。

イ 幼児の姿

- 今度はそら組の発表会をするんだと学級の友達や先生と楽しんで取り組んでいる。
- 友達同士自分の感じたことや考えたこと等を出し合い、相談しながら発表会ごっこの準備を進めている。
- 自分の得意なものを発表するんだと、子どもなりに工夫したりしてはりきっていて、心待ちにしている。

ウ 本時の展開

時間	幼児の活動	教師の援助	環境の構成
9:15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合い ・ 発表会ごっこの進め方、係を確認し合う。 ○ 発表会ごっこ (プログラム) 1 はじめのことば 2 ジャンプサーカス (跳び箱、側転) 3 そら組竹馬 4 3匹の子豚(人形劇) 5 なわとび運動会 6 楽しい踊り オールマイトゥルーラブ (ダンス) 7 おわりのことば 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会ごっこについて落ち着いて話し合いができるようにする。 ・ 活動に期待が持てるように楽しい話題を心がけたり、明るい雰囲気作りをする。 ・ 準備は友達や先生と協力して進めるが、子どもがやろうとしているところは任せるようにする。 ・ 自分の出番や係がわかり、友達と協力して発表会ごっこが楽しくできるように見守ったり、手伝ったりする。 ・ 発表や係活動をしている時、その子なりの頑張りを認め、励ましの表情を表し安心してできるようにする ・ 発表が終えた時には子どもと一緒に喜び、共感する。 ・ 発表することを恥ずかしがり行動に移せない子には、やってみたいと思うきっかけになるような言葉をかけてみるが状態を見ながら、その子の心に合わせて援助していく。 ・ 友達の演技や係活動のよさをそれとなく子ども達に伝え、友達の存在やよさを認めていけるようにする。 ・ おしゃべりやいたずらが見られた場合は、話し合いをし、最後まで発表会ごっこが楽しめるようにする。 ・ 一人一人が一生懸命取り組んだ姿を誉め満足感を持たせ、次の意欲へつなげていく。 ・ 自分が使った物だけでなく、みんなが使った物も協力して片付けるようにする。教師の楽しかった感動を伝えながら片付けにも進んで取り組んでいけるような雰囲気にする。 	<p>環境の構成</p>
10:0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表会ごっこを終える。 ○ 片付ける 		



⑥ 公開検証保育の活動の経過

子ども達の様子と教師の関わり

登園時

子ども達はいつもより早めに登園している。教師が来るのを待ちかまえていて、そら組の玄関から「おはよう」と遠くにいる教師をよんでいる。教師は子ども達一人一人に「まかせたよ、頑張ってるね」と笑顔で声かけする。子ども達はにこにこ笑顔で弾んでいる。

発表会ごっこをプログラム順に進めていく。

ジャンプサーカス（跳び箱、側転）

準備係はさっと出てきてすぐに準備している。踏み切り板は友達と一緒に持ってスムーズだ。跳び箱の飛び越しでこれまで飛び越せなかった子が飛び越せたり、側転に初めて挑戦した子もできた。跳び箱の片づけ時に客席から「僕も手伝ってあげる。」とマットを持ってくれる子ができた。

そら組竹馬

自分の得意な技を発表するんだと意欲的で自信を持って発表している。マイク係が得意技を紹介したり、うまくできないけど頑張ってる友達には「まだまだできないけど拍手をお願いします。」とアナウンスしているので、演技をしている子はますます一生懸命！いい表情をしている。

3匹の子豚（人形劇）

お互いに舞台裏で声かけ合って、チームワークよく演じている。観客から「音楽スタート」のかけ声や「足が出てないよ、狼君」狼役はすかさず足を出す場面が見られたり、観客もテープに合わせて楽しく歌っていて、演じる側と観客が一体になっていた。演技が終わると「片づけにいくぞ」と声かける子がいて、他の子も一斉に舞台の片づけにとりかかっていた。

なわとび運動会

順番よく並んでいて、自分の出番をわくわくしながら待っている。これまでに見られなかった二

教師の読み取り

これまでの意欲的な取り組みがあったから、今日の発表会ごっこを楽しみにすることができた。心配もあるのでしょうか、その気持ちを毎日一緒に取り組んできた教師と共感したいのね少しの不安もなくしたいために「任せたよ」と声かけしたが、自信をもっているようだ。

今日の発表会ごっこで自分のよさを十分出そうと張り切っていて力が入っている。何でも自由にやっという雰囲気があるからこそ、選んでない種目に出たり、片づけ係を進んでやる事ができた。自分の心のままに行動できたと思う。手が足りないところを見て、手伝っているということは協力しようという思いがあり又思いやりが見られる。

学級の中に自分の存在が認められているからこそ意欲的に自信を持って演技をしている。うまくできないけど挑戦している子は「あの子がやっているから、私もやりたい」と友達に刺激を受け挑戦しようという気持ちになったと思われる。友達の頑張りを認めていることがそういうアナウンスの内容になったと思う。

これまでの取り組みからお互いを認識していて、受容しあえるようになってきていてチームワークがいいと思う。よりよい人形劇にしたいという思いが演じている友達に教えてあげていると思う。演じる側と観客が一体になったことは楽しく充実した活動を生み出している。楽しく人形劇を見たことが主体的な係活動につながっている。

早く発表したいという気持ちが強いと思うが今の状況がわかり、自分がどうすればよいかということを考えて行動している。

人横とびの演技がでてきた。見ている子ども達の「難しいのやるよ」という言葉が聞かれ、頑張っている二人に拍手し、讚えている。

わくわくするような発表会にしたいという思いが二人横とびを発表しようという主体的な行動に出たと思う。自然に子ども達から拍手が出たということは幼児同士の心のつながりのある温かい集団が育っていると考えられる。

楽しい踊り、オールマイトゥルーラブ（ダンス）
踊る楽しさに惹かれて今日は男の子も舞台に出ている。踊っている途中にテープの音が途切れる予期していない出来事に会場が哑然となったが教師の「みんなで歌おうよ」という援助などにより観客もみんなで歌い始め、踊りが再開され、舞台と観客が一体になり、楽しく踊りを発表することができた。

「あの子がやっているから私もやりたい」「みんなでやるとおもしろい」等と思うことが男の子も踊る意欲につながったと思う。

困った時にはみんなで助け合う、いい発表会にしたいという気持ちが子ども達にあるからこそテープが途切れたにもかかわらずみんなで歌いつなぎ、踊りを発表することができたと思う

予定にはなかったインタビュー

二人の女の子が出てきてクイズを始める。これから何をするのか、クイズをしながら答えを出させている。やりとりでうまく伝わってない部分を教師が言葉にし援助してあげる。先生達にマイクを持ち感想を聞いている。誉められるとやったとにっこりしている。

学級での活動を最も安心して自己発揮できる場として捉えているから自主的、主体的な行動が出てきたと思われる。



⑦ 検証保育の評価

ア 子ども達の感想

- ・ 最初は側転2回できてからうれしかった。竹馬ね青いので後ろ歩きとかケンケンやっておもしろかった。インタビューはちょっと難しかったところもあったけど頑張っとうれしかった。マイク係しゃべっておもしろかった。オールマイトゥルーラブの最後のポーズが楽しかった。
- ・ 竹馬が楽しかった。ジャンプできなかったけど初めてジャンプができるようになった。それはねケンケンやろうと思ったけどジャンプになっていた。
- ・ テープ入れるのがおもしろかった。側転もおもしろかった。だけどさ逆立ちもしたかったよ。
- ・ プログラムの字を書いて楽しかった。模様描いてさあわくわくしておもしろかった。
- ・ オールマイトゥルーラブが楽しかった。こんなとかこんな（踊りの動作をしている。）スピードの歌もおもしろかった。クリスマス発表会はどうかなと考えたよ。その名前がついたので楽しかった。
- ・ 跳び箱飛べなかったけど飛べるようになっておもしろい。竹馬できるようになって楽しい。
- ・ 縄跳びはあや跳びしたよ。それでおもしろかったんだよ。それにダンスを見てかわいかったからよかった。男の子ね竹馬上手だった。それとね、ひろたかね側転すごい上手だった。跳び箱も上手だったよ。
- ・ ダンスでこうやる（踊りの動作をしている。）のがおもしろいんだよ。大きい竹馬に乗ってゆらゆらしたけど頑張った。

イ 父母の感想

お母さん方からの発表会ごっこを見学したいという強い要望があり、発表会ごっこPART IIで実施することができた。

- ・ 子ども達の運営でそれぞれに頑張り子ども達のパワーを感じました。自分の出せる力を素直に見せてくれました。それが自然でいいなあと思いました。どの子どもともいきいきとした表情で元気いっぱい顔が印象的でした。
- ・ プログラム作りも楽しく参加できてとても上手にできていたと思います。家でも時間さえあれば、ずっと絵をかいています。
- ・ 子ども達それぞれが生き生きして見ている私もわくわくしてしまいました。我が子のはずかしながらも自信満々の姿がかわいかったです。そして何よりも最初から最後まで（あいさつ、アナウンス、準備等）子ども達の力でできていたのがたくましく、ほほえましく思い又「あー幼稚園でこれだけできるのか！すごい！」の一言でした。
- ・ 短い時間に自分達の役割分担もできていて発表の中では個々の個性も見られたし頑張っている様子がかがえました。
- ・ お客様の前でみんな堂々としていたのにも感心です。マイクの使い方も慣れていて大人の方が「負けそう・・・」っという感じでした。こんなクラス単位の発表会がもっとあつたら子ども達の出番も多くなっていいと思います。みんな楽しそうにそしてとても上手にできていてとても感心しました。



ウ 結果と考察

活動内容の工夫

活動の場の工夫

- ・ 発表会ごっこまでの取り組みは子どものよさを生かす場が多く持てるようにという思いから、教師のアドバイスはなるべく控え、又子ども達が発想したことはどんな小さなことでも大切にしながら取り組んできた。そのことが子ども達が自主的、主体的に発表会ごっこに取り組むことができ、よさを出すことができた。
- ・ 各出し物や各係の取り組み状況を特によさが見られるところを帰りの会等で学級のみんに伝えてきたことがそれぞれの子がよさをだすことができ、生き生きと発表会ごっこをすることができた。
- ・ 活動の選択、グループの決定、内容の方法等はすべて子ども達と相談し、子どもの意見が反映されるように進めてきたことが自分達の発表会なんだという意識になり、自分のしたいことを自由にすることができ、よさを出すことができた。
- ・ 子ども達の背後でいつも活動を見守り、一人一人の子どもの立場に合わせてその活動や役割を認め自信を持たせるような言葉かけを教師がしたことが安定して、のびのびと取り組むことができ、よさを出すことができた。
- ・ 子ども達の活動に、必要な材料をなにげなく用意したり、演技がしやすいと共に自由に使える舞台を設ける等取り組みやすい環境作りをしたことが発表会ごっこが意欲的な活動になり、よさをだすことができた。
- ・ 子ども達の心が開かれていて、自分の感じたことや考えたこと等を素直に出せる雰囲気や人間関係が育っているからこそ、お互いを認め合い助け合っって心をつなげて、共通の目的に向かって取り組めたと考えられる。

(2) Y男の変容 「アナウンサーもできるよ」

① Y男のプロフィール

平成4年12月12日 生まれ 家族構成 父、母、姉、祖父、祖母、伯母
 集団保育歴 私立保育園 3年

② 保護者から見たY男と担任から見たY男

保護者から見たY男（家庭生活アンケートを6月に実施する。）

よさ	子育てで大切にしていること	気になるところ	どんな子に育ってほしいか
<ul style="list-style-type: none"> ・元気がある ・動物が好き ・自分の好きなことは集中力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少しの時間でもできるだけ本人の話を聞いたり質問したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少食 ・体力と運動量のバランスが悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で素直な子

担任から見たY男

よさ	気になるところ	願い
<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心旺盛である。 ・動植物に興味、関心がある ・自分の思いを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まりを守らない ・自分の思い通りにしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活の中で我慢したり譲ったりすることができる。 ・学級での活動に意欲的に取り組めるようになる。

《アンケートからの担任の考察》


よさは園、家庭とも共通していて、ほぼ自分らしさを出していることが伺える。しかし集団生活の仕方が気になるがよさをのばしきれていないからだろうか。

③ これまでのある日の様子（個人記録から抜粋）

子どもの様子	教師の援助
5/8 水と関わって遊ぶことが大好き。手洗い場の水道の水をたくさん出し、廊下を水びたしにする。話し合い、ぞうきんでふかせる。又、同じ遊びを始め、又もや廊下を水びたしにする。	部屋の中で水遊びをすると床が濡れ、すべりやすく、危ないことや床がいたむことを話し、部屋では水遊びをしないよう伝え、一緒にふく。
6/4 二人一鉢の朝顔の芽が出たことに大喜び！（実は芽が出ないので教師が移植してあげた。）その後水やりしながら観察している。「この水色の花は僕のだよ。見てよ」と言い、つるのゆくえを指でおいながら教師に説明している。自慢げでここにこしている。	Y男の朝顔の花に興味を示し、きれいに咲いねと一緒に喜ぶ。水やり頑張っているからだねと誉めてあげる。
6/11 工作の絵本を取り出し、教師に紙コップを請求し、○○を作っている。途中おやつ時間になり同じグループの女の子に集まるように言われた。今は紙コップで作っているのにとカッとなりその子の背中をひっかく。その子は泣き出す。	紙コップを用意し、関心を示す。 おやつ時間であることを話し、自分の行動を反省させる。

④ 保育カンファレンス

2学期になったが自分の思い通りに行動しようとしている姿がまだ見られる。集団生活の場で、ルールを守ったり学級での活動に進んで参加したりできるようになってほしい。保育カンファレンスでY男の理解を深め、明確にし、今後の指導に生かしたい思い実施した。

平成 10年 9月 22日 火曜日 天気 (曇り)		
時間	幼児の姿と教師のかかわり	読み取った心の動き
8:30	T4 そら組の教室を出て遊戯室に歩いていくY男、朝の挨拶をしようと近づいてみる。「Y君おはよう」無言！もう一度「Y君おはよう」目も合わさず正面を見つめ、小さな声でこたえ、まっすぐ歩いて行く。	朝の会より遊戯室で遊んだ方がいいな 朝の会が始まる時刻を意識していないのかな。
	T1 朝の会が始まる前に1階にある遊戯室に行く。実習の先生が連れてきてくれる。朝の会では動き回ることなく自分のグループに座っている。教師が「今日の水やり当番はこのグループかな？」と聞いたら、小さな声で「3グループ」「Y君何って言ったの？」と聞いたら気まずそうに照れている。(今日は2グループでY君は当番)その後「雨が降りそうだよ」と言っている。 畑に水やりにいこうと誘うとすんなりついてきた。水道の栓を渡すと先に行って、ホースを準備している。ホースをひっぱり、重くなるとからまりをなおしにくる。教師が水を出してあげると、「水が強いから直して」と言うので調節してあげたらうんとうなずいていたがしばらくして、自分で水の出方を調節している。水やりしながら「おいも君にたっぷりかけてあげる」「ごーやーくん」「赤ちゃんごーやー」とにこにこ顔！	僕は当番はあまりやりたくないんだ。好きな遊びがしたいな。 僕当番頑張るよ どこがからまっているのかな 直してあげよう 水が強いと倒れるよ、かわいそうだよ。 水大好きでしょう、僕がかけてあげるからね。
	T2 担任も周りの教師もY男のこれまでに見たことない場面を見て、担任と一緒に感動する。	
	T1 水やりしながら枯れたオクラの実に興味を持ち、取っている。収穫したごーやーも持っている。たくさんなので担任はかごを準備してあげる。喜んでかごに入れ、遊戯室に向かった。	
9:45	T3 T3が「楽器を作るんだって?」「おもちゃだよ」とY男、T子と一緒にオクラの莢から種とりに一生懸命、発泡スチロールの皿に集めているが、T子の補助をするような形で種とりをしている。T子が「何か箱とかあればいいのに」Y男は「こんなもんでいいだろう」と細長い箱を部屋の隅から見つけて持ってくる。N子がすかさず種を中に入れゆっくり動かし音を出す。N子が「先生ほら波の音！海の海岸にいるみたい」Y男は「おもしろい音」と言いながらN子の持つ箱に手をそえてにこにこしている。とN子を	今日はこのオクラで遊ぼう。 僕が水やりを頑張ってもらった種だよ。 Nちゃんと一緒におもちゃを作るんだ、いいでしょう この箱でNちゃん気にいってくれるかな 僕が持ってきた箱が役に立ったぞ嬉しいな。

	中心に遊びが進んで、種をなかなかさわらせてくれないのであきらめておもちゃ工場へ フラフラと箱を探し始めて何か作り出すが目的はあまりなさそう	種遊びはもうあきらめよう、 おもしろい遊びはないかなあ
10:30	T5 ティッシュの空き箱等をガムテープでくっつけ一人で遊んでいる。T5が「おやつ時間だから片づけしよう」と声をかけるがT5をチラッと見て製作を続けていた。	今作っているものを仕上げたい。
10:45	おやつ準備でほとんどの子は入室しているがブランコで一人立ちのりしている。「おやつ時間だよ。お部屋に入って」と声かけする。T5を見て止める様子もなく無表情でこぎ続けていた。	自分の好きなことをやりたい いんだ。でも誰もいないなあ

かかわりの気づきと今後の援助

- ・水やり当番で水の出方を自分で調節したり、野菜とお話ししながら水やりしていて、自分がやろうと決めたことには主体的に取り組むことがわかった。それと共に思いやりがある優しい一面を見ることができた。
- ・職員全員で今日はY男に十分関わっていきこうという姿勢から、丁寧な関わり方をしたことで集まりや係活動（水やり）をすることができた。自分がいやだと思うことに対してもいつもより意欲的に取り組むことができたと思う。
- ・オクラの種を使っでの遊びでT子の思いに合わせて動いている様子から、関わる相手によっては自分の行動を相手に合わせていきこうと努力するところもあることがわかった。
- ・集まり時に廊下にてたり、おやつ時間に声かけしてもブランコにのり続ける等学級での活動に進んで参加しようとする気持ちがあまりみられない。
- ・一日の生活の流れの中でのY男の様子をキャッチし、よさを認める機会を学級での話し合い活動等で多くシラスの中での存在感を強めていきこう。学級での活動を楽しめるようにしていきたい。
- ・次々と遊びを変え、夢中になって遊んでない様子が見られたので、目的が持てる見つけさせるようにしよう。今、多くの子が関わり始め、又Y男の興味のある竹馬に挑戦するようにしむけていきこう。
- ・これからもY男との関わりを増やし、信頼関係を深め安定して活動に取り組めるようにしていこう。

保育カンファレンス後

9月24日～30日

砂場でどろんこ遊びをしていたY男に「竹馬やってみよう。」と声かけした。（1番初めに竹馬に挑戦した子である。）初めは返事を渋っていたが、Y男のお姉ちゃんも頑張って練習していたよ。」と話す「じゃやってみる。」と意欲が出てきた。なかなか思うようにならないようだったが、一対一で関わってくれる先生や周りに来てくれる先生も頑張っておと激励してくれる。絶対に乗れるようになりたいと思うようになったY男何とその日の内に危なっかしい足どりではあったが20歩程歩くことができた。乗れるようになると担任にも報告にきていて一緒に大喜びをした。

帰りの会でY男が頑張ってお乗れるようになったことをクラスの子に伝えたり、実際に竹馬乗りをやってもらいY男の頑張りをクラスみんなで喜び誉め称えた。

運動発表会の様子（12月5日）

自分の得意な竹馬を発表するんだと楽しみにしている。竹馬が始まるのを気にして、何度も「先生竹馬まだ？」と聞いている。「もう始まるよ」と声をかけると、急いで自分の列に並び意欲満々！一番高い竹馬に乗り、自分の得意技である後歩きを堂々と発表した。真剣な演技にお母さんの感動した顔が見られた。（運動会には獅子舞を踊らなかったので喜びはなおさらだったでしょう。）

⑤ 検証保育を通して

僕も得意なものがあるよ 12月7日

帰りの会で運動発表会がとてもよかったことを話す。Y男も喜んで話し合いに参加している。教師の声かけによく反応している。「Y君のあの遊びすごいよ。金メダルだよ。」と誉めると「やったー」と声を出して喜んでいる。その日帰りながらも自分の得意なものを見せようと教師をしきりによんでいる。



舞台作るの楽しいよ 12月9日

発表会をやる場所を圧倒的多数でそら組に決まる。部屋が狭いので絵本棚等を移動しようということになり、みんなで運ぶ。Y男も何度往復して重い棚も少しも苦にならない様子で喜んで運んでいる。

マイクと音楽係僕にさせて 12月11日

舞台ができあがり、自発的に竹馬チームが演技をやり始める。マイクと音楽(アンプ)に興味を示したY男、いつのまにかマイクを持ち、演技をしている子ども達を紹介している。カセットテープの操作も始め、両方共とても上手だ教師がマイクと音楽係を勧めたら、喜んで引き受ける。

発表会ごっこ 12月16日

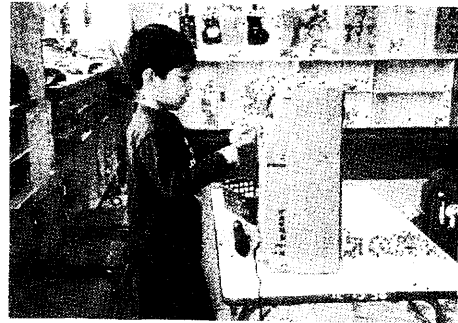
Y男は髪も切ってきて、早い登園。今日も自主的に係の準備をしていて、「先生手伝って」と机運びを頼んでいる。朝の会でも、教師の声かけに元気いっぱい答えている。マイク係も大ハッスル。演技中の紹介だけでなく、「竹馬の子準備してください。」「2回ずつやって下さい」「静かにしてください」等のアナウンスが聞かれ、発表会ごっこの監督になりきっている

発表会ごっこのリハーサル 12月15日

始める前からY男は自主的に自分の係のアンプ、机等の準備をし、張り切っている。カセットテープも教師にちょうだいと言い、やる気满满！係の仕事をしながらも自分の出番はわかっていて、演技をしたり、係の仕事をしたり忙しい。竹馬のアナウンスでは舞台にでてきた子に「得意技をどうぞ」と言い、進行も務めている。人形劇では「人形の足出して」と言っていて友達の演技に興味深く見ていて楽しんでいる

発表会ごっこ PART II 12月19日

お母さん方や他クラスの友達を招いての発表会ごっこ。Y男はお母さんだけでなくおばあさんも見てくれるのでますますはりきってやっている。終わると同時にお母さん、おばあさんがかけよる。発表会ごっこの余韻にひたっていて、3人の満足そうな笑顔が見られる。

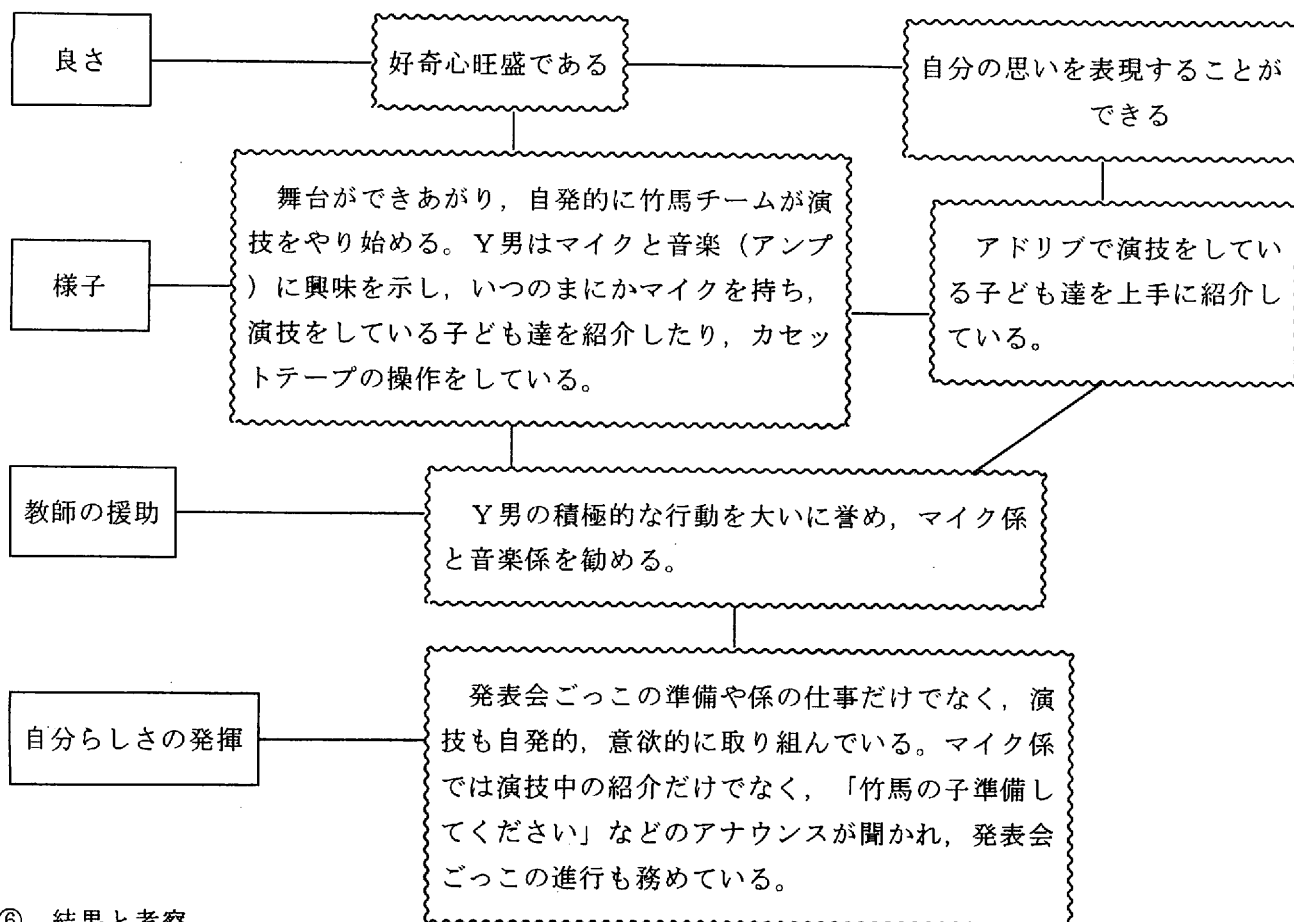


2学期の終業式 12月25日

2学期の思い出を発表中の同じ学級のT子、なぜか発表するのが不安そうのためらっている後ろのほうから身をのりだして、T子ちゃん頑張れと声援を送っている。集会等は喜んで参加しないY男だったが友達を心配したりするほど終業式にも意欲的に参加している。



発表会ごっこの中でのY男のよさを生かした活動



⑥ 結果と考察

- ・ Y男のよさを見つけ、Y男の興味のある竹馬に挑戦しようと声かけし、教えたり、できるようになると一緒に喜び、教師全員で関わってあげたことが、Y男のよさを生かし、竹馬乗りに集中できた。
- ・ Y男のよさ（竹馬乗り他）を帰りの会等でクラスの子に伝え、存在感を強めたこととY男の興味と欲求の持てる活動をしたことが学級での活動である発表会ごっこに自分からマイク、音楽係をする等意欲的に取り組むようになったと考えられる。
- ・ 終業式には同じ学級の友達を思いやる行動が見られるようになり、幼児同士の心のつながりがY男にも育っていると考えられる。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

<作業仮説1について>

個人記録、保育カンファレンス、家庭生活アンケート等を活用することにより、一人一人の特性を理解することができ、よさを見つけることができた。

- (1) 個人記録を通して子どもの特性が明らかになり、よさを見つけることができた。
- (2) 保育カンファレンスで子どもに対して丁寧な

関わりをすることができ、そのことが対象児を生き生きとさせることができた。

- (3) 保育カンファレンスで多くの教師の見方、感じ方が参考になり、より確かなよさを見つけることができた。
- (4) 家庭生活アンケートを実施し、保護者からの見方を把握することにより、園では気づいていないよさを知ることができたり、再確認することができた。

<作業仮説2について>

一人一人のよさを生かす学級での活動内容を工夫したり、活動の場を組織することにより、一人一人の子どものよさを生かした生き生きとした学級をつくることができた。

- (1) 学級での活動の中で一人一人の子どもが自分を発揮し、よさを出して取り組んでいた。
- (2) 子ども達の自発的、主体的な活動が多く見られ、生き生きとした学級をつくることができた。

2 今後の課題

- (1) 幼児の内面に目を向け、幼児理解を深める手だてを考えていきたい。
- (2) 子どものよさを生かし、楽しく取り組めるような学級での活動を精選していきたい。

おわりに

これまで、子ども達一人一人が持っているよさを引き出し、そのよさを学級の仲間みんなが認め合える温かいそしていきいきとした学級を目指して研究を進めてきました。

研究期間中、優しく丁寧にご指導下さいました浦添市教育委員会の比嘉美也子指導主事、宮城久

子指導課主査、研究所の新城英将所長、池田博暁係長、當間正和指導主事、嘉手川博美事務主事、山城敦子・岸本美智子図書館司書に深く感謝申し上げます。

研修の機会を与えて下さいました新盛勇園長、金城文子副園長、職員の皆様の協力のお陰で研究を終えることができました。厚くお礼申し上げます。

《 引用文献 》

柴崎正行 実践例でわかる援助のポイント100

フレーベル館

西久保礼造 幼稚園の教育課程 ぎょうせい

小田豊 一人ひとりを育てる ひかりのくに

岸井勇雄 指導法の研究 チャイルド本社

吉川秀子 5歳児の学級経営 チャイルド本社

《 参考文献 》

文部省 幼稚園教育指導書増補版 フレーベル館

姫路市立教育研究所 平成8年度 研究紀要

桐生市立教育研究所 平成9年度 研究紀要

西久保礼造 保育実践用語辞典 ぎょうせい

文部省 時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方について